慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Reio Associated Reposi	tory of Academic resouces					
Title	論理と感性の分野融合的研究およびその応用					
Sub Title	Interdisciplinary reserch on logic and sensibility and its applications					
Author	岡田, 光弘(Okada, Mitsuhiro)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2021					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)					
JaLC DOI						
Abstract	人の思考や判断における論理的側面と感性的側面を分野横断的に解明することを目指す研究を進 めた。この二側面はしばしば相反する側面として捉えられることがあったが、我々は両側面を人 の思考や判断や意思決定の形成における「互いに補完的な」二側面として捉えた。 特に、論炉と図的表現とが組み合わさった状況についての分析を、論理系グループと行動心理学 グループとの協力などで行ない、国際会議などへ成果の公開を勧めた。消費者の意思決定のため のカタログ表(他属性表)について、図的表現要素と論理的配列要素組み込むことによる意思決 定のやり易さや意思決定方略の変化の仕方をアイトラッカー法で調べた。順序ダイアグラム(ordin al igrams)と呼ばれる図的要素を持つ調弦順序数によりヒドラゲームなどの論理学的ゲームの新た な分析手法を与えた。 行動遺伝学グループは、本センターの複数の版との共同成果も含む、これまでの学際研究成果を まとめた報告を出版した。このほか、学業成績と教育格差の行動遺伝学的研究の成果を報告した 。このほか、認知神経科学、発達科学、感性科学、認知心理学、整理心理学、社会心理学、医療 人類学、美学美術史学グループ、倫理学グループなどの報告を含む学際広告集会を開催した。 We made interdisciplinary studies on the two aspects of human thinking and judging. In particular, oue research approaches unclude both experimental study methods and humanity-scientific study methods as well as some field works. One of varuous results which we obtained in this srudy during the academic year of 2019 was some results on s series of studies of diagrammatic (intuitive) understanding and logical undrstanding. For example, we studied diagrammatic and logical designing of multi-attribute catalogues, diagrammatic aspect of logical games 8such as the Hydta Game) etc. The Beharioral genetics group reported their recent years' work in which the interdisciplinary works in our Center were included. The annual meeting of the Center took place in feb. 2019 to discuss each other's result interdisciplinarily.					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=201900008-20190343					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	- 補助額	718 =	千円	
	氏名	岡田 光弘		Mitsuhiro Okada				
論理と感性の分	}野融合的 研究	およびその応用	究課題(日本語 研究課題(英訳					
Interdisciplinary	/ Reserch on lo	ہت gic and sensibility and its appl)				
			研究組織					
氏	名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
岡田 光弘(Mi	itsuhiro Okada)	文学部·人文社会·教	文学部·人文社会·教授					
山本 淳一(Ju	inichi Yamamot	o) 文学部·人文社会·教	文学部·人文社会·教授					
安藤 寿康 (Ju	iko Ando)	文学部・人文社会・教	文学部·人文社会·教授					
遠山 公一(Ka	oichi Toyama)	文学部·人文社会·教	文学部·人文社会·教授					
梅田 聡 (Sato	shi Umeda)	文学部·人文社会·教	文学部·人文社会·教授					
エアトル ヴぉノ Ertr)	レフガング(Wo	lfgang 文学部・人文社会・教	対授					
			研究成果実績の					
する側面として て捉えた。 特に、論炉と図 際み込むことに約 みびれる医学の が で動す成積となり です 支 で 数 で の た の の の で が た に に の の の で の の の で の の の の の の の の の の	捉えられること 的表現とが組 な果の公開を勧 る意思決定の 要素で持つ調弦 レープは、本セ 育格差の行動道 学、医療人類 disciplinary stu- tal study meth- s results which ntuitive) under gues, diagramn genetics group of the Center 手氏名 講演者)	dies on the two aspects of hu ods and humanity-scientific st we obtained in this srudy dur standing and logical undrstand natic aspect of logical games & reported their recent years' took place in feb. 2019 to disc 3.本征 発表課題名 (著書名・演題)	人の思考や判断 分析を、論理系 た。の力方をアゲー での論理学がしていた。 た。このほか、 た。このほか、 た。このほか、 た。このほか、 た。このほか、 た。このほか、 た。このほか、 た。 でのほか、 た。 このほか、 た。 で の の の の た。 で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	新や意思決定の形成における グループと行動心理学グル- そ(他属性表)について、図的 イトラッカー法で調べた。順序 ームの新たな分析手法を与う までの学際研究成果をまとめ 認知神経科学、発達科学、感 などの報告を含む学際広告 を (英訳) nd judging. In particular, oue s well as some field works. ic year of 2019 was some re le, we studied diagrammatic dta Game) etc. he interdisciplinarily. - る発表 発表学術誌名 香書発行所・講演学会)	5 「互いに補完的 ープとの協力なん 表現要素と論理 ダイアグラム(or たま。 たま。 た報告を出版し 性科学、認知心 集会を開催した。 research appro esults on s serie and logical desi our Center were (著書発行年)	は 」 に が で 行 な し で 行 な し で 行 な し で 行 な し の で 引 の 思 列 要 っ で 行 な し の 配 列 要 っ ー が の で の の の の 要 っ ー が い の で の の の 要 っ に の の の 要 っ に っ 、 こ の に 。 つ で っ 、 こ の に う っ っ 、 こ の に う っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	面とし 「 、 素 ms)と ま 理 iclude ies of multi- d. The 年 月)	
M/Okada and Y	′.Takahashi	A Remark for the Use of a Ordering with an Algebra Howard-Style Interpretation Lambda for Termination Pro Typed Rewrite Systems	and a Rewritin on of	•	Accepted in WELA 2029 Ma	March,		
T. Ideno and M.	Morii,	MultiaM.Okadattribute de making		■度末論理と感性のグロー 究センター成果報告会	1020ン年2月2	29日		
安藤寿康		学業成績と教育格差の行動。 的研究		■ 度末論理と感性のグロー 究センター成果報告会	1020ン年2月2	29日		
M.Okada		Type theory-revisited		.学哲学会大会シンポジウ 堕者兼オーガナイザー	2019年11月9	9日		
M. Okada		What is "formal" in logic?	Logic Luon-3		2020年2月1	2日		
3	ai Hiraishi, 1ima, Mitsuhiro	Psychosocial Twin Cohort S in Japan: The Keio Twin Re Center (KoTReC)			Accepted/In p 1	ress – 20)19 1	